

## アトムフェスティバルについて。

田丸 あけみ

10月17日(土)にアトムフェスティバルが行われます。対象は、4.5歳児の子ども達です。子ども達は今、自分は何をしたいのか?を考えている真っ最中です。アトムフェスは子ども達が、自分でやりたい取り組みを考え、保育士は、子ども達が何をやりたいのか?を聞きながら、一緒に子ども達と決めていきます。

これまで、スキー・おにごっこ・かくれんぼ・ままごと・虫ごっこなど、ユーモアたっぷりの内容を子ども達は考えて、取り組んできました。中には、せっかく決めたのに、違うアイデアが浮かんで気持ちが変わり、また一から考え直す事もよくある事です。フェス当日に、急遽やりたいことを変更した子どももいました。フェスは、それも有りなのです。変更したくなかった理由は、単純に変えたかったからという子どもいれば、何日も悩んで変更する子どもいます。

子ども達は、フェス当日までのプロセスの中で、心をたくさん動かしながら、当日を迎えます。それは取り組み決めだけではなく、友達とのやりとりだったり、失敗するのを見られるのは嫌だけど、やってみたいと葛藤する姿があったり、かっこいい所を見てもらいたいと意気揚々とする姿があったり、子ども達の気持ちは様々です。

「やりたくない」もよし!なのです。「やりたくない」の心の奥には、葛藤する気持ちがめいっぱい見えてきます。やりたくない子には、「じゃあ、なにする?」と自分で考え“したい事”“出来る事”を決めます。それが、応援でも、見ているだけでもいいのです。全員一緒の事をする、させる事が大事なのではなく、一人一人の子とも達が、自己表現を存分に出来る体験を大事にしたいのです。

そして、もう一つ大事にしている事は、子どもの個性の発見です。フェスの練習を通して、子どもの意外な一面を発見する事がよくあります。

普段は、おとなしく見えてもいざと言う時は、負けん気が強い子、何事も直ぐに諦める子どもに、自分のやりたい事が見つかる、とことん粘る姿がある子など、その都度、子どもの新たな個性の発見を保護者と共有しながら、更に子ども理解を深めていきます。反対に保育園では、見せない姿を、家で見せたりする子どもいるので、そういう時は保護者に教えてもらい、子ども理解に繋がります。

幼少期は、安心した大人との関係の中で自分の思いが出せて、それを聞いてもらえる体験、受け止めてもらえる体験を、たくさん肌と心で感じてほしいと思います。しかし、いつも当日は、出来栄は気にしない子どもが楽しむアトムフェスティバルです。しかし、いつもと違う雰囲気、緊張する子どもいます。その中で、見えてくる子ども達一人一人の表現は様々です。きっと、やりたくないと言う子どもいると思いますが、やりたくないと言える事も拍手を送ってあげて下さい。私たち大人が忘れかけていることを子ども達は、体と言葉で教えてくれると思います。アトムフェスは、評価の場ではなく、子ども達の自己紹介の場だと捉え温かく見守ってあげてください。